

6月4日 使徒言行録2章22～36節 今日の説教から

説教題：「あなたがたが十字架につけて殺した」

「あなた方が十字架につけて殺した」、そう言いわれてぎょっとしない人はいないと思います。私たちのだれもが、基本的には人生の初めから終わりまで、人を殺すという経験をせずに過ごすのですから、「あなたが殺したのだ」なんて衝撃的な言葉を聞くことはほとんどないと思います。ただ、聖書の言葉がただの歴史の中で紡がれた言葉ではなく、生きた言葉であり私たちに向けられた言葉であると受け止めるのであれば、私たちはこの「あなたが殺した」という言葉も、真っ向から受け止める必要があると思います。私たちは、イエス様を殺してしまったのでしょうか。

確かにイエス様は私たちの罪を贖うために十字架へと向かいました。その意味において、確かに私たちはイエス様の死の原因であります。ただ、イエス様の死はそのように単純なものではなく、神様の御心を実現させようというイエス様の確かな意思があったからこそ、十字架と復活は実現したのです。

また、イザヤ書53章の苦難の僕の預言の中で語られている言葉の様に、十字架についたその時のイエス様は、病気や怪我によって蝕まれた、満身創痍の姿であったのかもしれませんが。それほどまでに、私たちの持つ痛みも、病も、死も恐れも、そのすべてを経験して、知ってくれている。それが私たちの主であるイエス様なのです。イエス様は、死ぬかもしれない恐怖も、これから自分が殺されるという焦燥感も、自分の人生の終わりが刻一刻と近づく恐ろしさも、知っています。そのことを私たちが理解したその時、私たちの側に常にイエス様がいたことに気付くのです。

今私たちは、イエス様に出会うことが出来ています。聖書の言葉から、日々の様々な出来事から、そして病や怪我、死の淵という恐ろしい出来事に出会う度に、そこに「共に歩んでくださるイエス様」の姿に出会うことが出来るのです。もし仮に、イエス様が死ななかつたとすれば、十字架のあがないによって永遠の存在へと復活しなかったのならば、私たちがそのイエス様に出会うことはありませんでした。イエス様が自分の命を惜しみ、神様の御心を実現するのではなく、ただ神様のことを教えるだけの、ユダヤ教のラビであり続けたのであれば、私たちがイエス様に出会うことはできなかつたのです。

いま私たちがこのように教会にいるということ、私たちがこのように信仰に導かれたということ、その始まりには確かにイエス様の死が、十字架の上でその命を全うした、神様の御心を叶えるための死があったのです。イエス様は確かに十字架の上でなくなりました。私たちの罪によって死んでしまったのです。「しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかつたからです。」そう語られるように、私たちにもまたイエス様が通ったものと同じ道が備えられています。その希望に励まされながら、これからの歩みを進めていきましょう。

今日の説教箇所：使徒言行録 2 章 22～36 節

- 22:イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおりにです。このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。ダビデは、イエスについてこう言っています。『わたしは、いつも目の前に主を見ていた。主がわたしの右におられるので、／わたしは決して動揺しない。だから、わたしの心は楽しみ、／舌は喜びたたえる。体も希望のうちに生きるであろう。あなたは、わたしの魂を陰府に捨てておかず、／あなたの聖なる者を／朽ち果てるままにしておかれない。あなたは、命に至る道をわたしに示し、／御前にいるわたしを喜びで満たしてください。』
- 29:兄弟たち、先祖ダビデについては、彼は死んで葬られ、その墓は今でもわたしたちのところにあり、はっきり言えます。ダビデは預言者だったので、彼から生まれる子孫の一人をその王座に着かせると、神がはっきり誓ってくださったことを知っていました。そして、キリストの復活について前もって知り、／『彼は陰府に捨てておかれず、／その体は朽ち果てることはない』／と語りました。神はこのイエスを復活させられたのです。わたしたちは皆、そのことの証人です。それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。あなたがたは、今このことを見聞きしているのです。ダビデは天に昇りませんでした。彼自身こう言っています。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着け。わたしがあなたの敵を／あなたの足台とするときまで。』」だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。』